

マサコラム

どうやら自然は〇〇らしい(1)

私達が構造計算に用いる基本の用語である「質量」はニュートンも実の所、正しい定義はしていない。超最先端科学によれば「慣性」は、物体が加速された時に真空の仮想気体粒子のねじれから生じる(真空に基づくローレンツ力)電気的抵抗で、物体が大きい程、気体粒子も多くなり、慣性も大きくなる性質をもつ。「質量」も同様、真空の電荷がエネ

ルギーのある限界を超えて電磁場と相互作用すると、其の時、実質的に質量が生成される。したがって、質量は宇宙の根本要素として存在する物ではなく、真空のエネルギーが凝縮したものである。であれば「重力」も常に質量と結びついており、古典力学で言う、重力が時間的、空間的に遠く離れた二つの物体間に働く謎の力ではなくなることになる。

どうやら自然は「質量」「慣性力」「重力」の概念を究極的には区別のない等価と考えているらしい。(真崎 雄一)

ORIKENの建築物耐震補強工法



【PCaブレース】
 施工中も建物内部は使用でき、短期間施工で安全性を確保。
 PCaブレースは、現在各地の学校建築、病院、公共建築物などの耐震性能を飛躍的に向上させています。デザイン的な配慮をする設計も可能です。



【PCa外フレーム工法】
 耐震性やデザイン性を高めて、建物の安全性を考えた技術。
 外フレーム工法はプレキャスト柱・梁を一体化する工法です。施工中も建物内部の使用が可能で工期の短縮も図れ、外観デザインの再考もできます。

滋賀大学・俣聖寮

京都大学・総合人間学部



代表取締役社長 橋口 三郎

本社 東京都千代田区平河町2-1-1 千102-0093 建築支店 東京都千代田区五番町5-5 千102-0076
 TEL03-3261-1174 FAX03-3234-1949 TEL03-3265-9812 FAX03-3263-4256

支店：北海道・東北・東京・北陸・名古屋・大阪・広島・四国・福岡 URL <http://www.oriken.co.jp>

JSCA千葉ニュース(春)

発行(社)日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報委員会)
 〒262-0031千葉県千葉市中央区長州1-14-1 飯島建築構造事務所内 TEL 043(221)5131
 FAX 043(221)5133

JSCA千葉2003年度 新年会開催される

特別講演は千葉大学の村上先生

去る2月14日(金)にバレンタインデーの華やかさから取り残された様に、JSCA千葉の新年会が千葉バーディホテルにて開催されました。第一部は、午後三時より千葉大学工学部デザイン工学科の村上雅也先生による「建築物の動特性と構造計画」と言う表題の講演、第二部は午後5時30分

より新年会が行われました。講演会は69名、新年会は63名と多くの正会員、協力会員そして行政の方々にも参加いただき、盛大に行えた事は年初めの行事として大変喜ばしい事と思えました。村上先生は今年度にて千葉大を退官なさるそうで、判定協議会にてお世話になっております、当JSCA千葉の会員にとって大変に意義のある記念講



講演中の村上先生



講習会の出席状況

演習成へたれ思います (服部...の面に続く)

JSCA千葉役員会議事録抜粋(相山)

役員会	第7回12月6日 (18:00~19:00)	(金)場所:バーディホテル15:00~17:00講演:村上先生(千葉大学)「建築物の動特性と建築計画」司会:市原、締め:真崎、受付:青木、相山、シールを申請、7:00~19:00新年会:司会:園部、中締め:齋藤、写真:安田、会場:向後、案内発送:在住、在職、学術会員、協力会員。2. 関東甲信越支部の設立/規約について10地区協議の規約提案基本的に今までのサテライ	ト予算は削らない。まとめ役は神奈川、千葉、埼玉で議長は神奈川3. 総会の講演会について、講師に渡辺邦夫氏の推薦。	3. 総会の準備について。
代表	飯島 宏治	出席、飯島代表他12名		
副代表	真崎 雄一	1. 新年会の開催について、案内発送は1月に入ってから行う。来賓は呼ばない。2. 関東甲信越支部の設立/規約について他支部のものを原案とする。本部提案他に埼玉案まとめ役は神奈川、千葉、埼玉で議長は神奈川		
総務委員会	向後 勝弘			
会員委員会	相山 誠治			
研修委員会	青木 光年			
広報委員会	服部 信幸			
技術委員会	真崎 雄一			
	園部 隆夫			
	中川 三夫			
	齋藤 美佐男			
	坂恵 一巳			
	安田 良一	出席、飯島代表他11名		
	市原 嗣久	1. 新年会の開催について、新年会15年2月14日		
	齋藤 利彦			
			第9回2月5日 (18:00~20:00) 出席、飯島代表他9名	
			1. 新年会の開催について、役割分担の確認、2. 関東甲信越支部の設立/規約について、代議員に飯島代表、真崎、齋藤(美)の両副代表の3名承認、各サテライトの事業計画を持ち寄って、年間計画、事業計画とする。	第10回3月10日 (18:00~20:00) 出席、飯島代表他10名
				1. 総会の準備について日時15年5月8日(木)場所:バーディホテル10:30~、講師:渡辺邦夫氏(榊構造設計集団(SDG)代表取締役、真崎担当、案内発送:代表担当、FAXにて出欠、来賓の確認
				2. 新年会の会計報告 会計担当の向後氏より報告:不足分は事業費より補填する。承認

編集後記
 最近、ある市で耐震診断業務が、大手設計事務所に一括発注されたという出来事がありました。様々検討された結果の方針だったので、結果だけを見ると、不況対策上の配慮が反映していないなと感じましたので、隣国の民ではありますが我田引水論のそしりを承知の上、この場所をお借りして取り上げたくったのです。古代天皇は民のかまどの煙たなびくを見て安心されたとされますが、豊かな民から貢物を得てはじめて治政が行えること、よって「まず市内に、次に県内に何故発注できなかったか」が第一点。新耐震設計法での建物は神戸での倒壊被害率5%とされていますが、殆どの建物が中小零細企業の構造技術者がたずさわっているという事実、よって技術的なバラツキは認めるものの、アベレージにおいて「設計の信頼性とは事業規模の大小ではない」が第二点。「建防協」関連の講習会は県内に限っても、年間延べ、数百人以上の受講者があり、業務上の義務付けもされているところから、その活用が期待されていますが、「何のための講習修了者名簿なのか」というのが第三点です。平成の不況は連日のようにJRを止め、仕事不足による悲惨事もあるとたない昨今です。このような状況を視点とした、きめ細かく弱者に暖かい行政を望んでやみません。官・学・民を問わず、然るべき立場にある人々には、然るべき立場以上の意識と行動が不可欠となっている現在の日本の状態。特定行政庁の多くが、かの方式を最良と考え、採用しているのだとしたら、民は座して死を待つだけというのも大袈裟な表現ではありません。努力目標の一つの芽を摘んだもの、と構造技術の民びとに絶望感を抱かせた出来事だったと思います。(安田)